

第10章 ペンタゴン 国防総省が進める壮大な「生物兵器研究」、
狙われる中東・中国・ロシア



生物兵器の実践部隊

<https://sputnikglobe.com/20230412/us-working-on-universal-genetically-engineered-bioweapon-russian-parliamentary-investigation-1109381193.html>



これまで「米軍の生物兵器研究」を詳しく調べてきたブルガリア人女性記者

ディリアナ・ガイタンジェバ

1

ガザ地区にけるイスラエルの蛮行ばんこうが相変わらず続いています。ネタニヤフ首相は「私たちの行動は旧約聖書に書かれているように神から認められたものだ」と言っています。

しかし GENOCIDE (大量虐殺) を許す神というのは一体どんな神なのでしょうか。

またバイデン大統領は新約聖書の信者だそうですが、彼が信じている神も、そのような蛮行を容認し援助することを認めるとすれば、そのような神も私にとっては信じがたい存在です。

2

このガザ地区の惨状をみていると、ユダヤ教あるいはキリスト教という宗教を根本的に勉強し直さなくてはいけないのではないかと、という思いが強くなってきました。というのは、EU諸国の幹部も、このイスラエルの蛮行を糾弾するどころか、黙認し援助する姿勢すらみられるからです。

また、あちこちの大学で学生の抗議行動が広がっているのがせめてもの慰めですが、「このような行動を許している」として学長を糾弾する声がアメリカ議会で強くなり、その意を受けて警察を呼び込んで弾圧したり休学処分したりする学長も増えていきます。

こういう状況を見ていると、欧米諸国が今まで自讃してきた価値観とは何だったのかと、改めて問い直したくなります。

3

次はロシアとウクライナ情勢についてです。

プーチン大統領が国防大臣を更迭し、代わりに元経済大臣をそのポストに据えて世界を驚かせました。しかし私は「プーチン氏はこの戦争は長期戦になるものと考え、腹をくくったのだ」と思いました。

かつてソ連がCIAの策略でアフガニスタンにひきづり込まれて10年近くも戦争を続けることになり、それが一因で国家崩壊に至りました。

ですから、今度の戦いもアメリカはウクライナを道具に使いながらロシアを崩壊に導こうとしているとプーチン大統領が考えたとしても不思議ではありません。

だとすれば長期戦を戦うためにロシアの「軍産複合体」を強化し、戦争を継続しながら経済成長も続けることのできる体制を整えなければなりません。だからこそプーチン大統領は、博士号をもつ経済大臣に国防を任せるといふ離れ業を演じたのではないかと私は推測しました。

4

ところが経済学博士号をもつ元アメリカ財務次官ポール・クレイグ・ロバーツは、これに異を唱えています。今までのロバーツ氏の主張は次のようなものでした。

「3週間で終わる戦争に、30か月もかけてどうするのか」

「そんなことをしているとロシア語話者が大多数のオデッサの住民すら守ることができず、逆にNAT

0軍がオデッサに駐留することになりかねない」

「なぜさっさとオデッサを占領してしまわないのか、そうすればゼレンスキーは和平に応じざるを得なくなる。さもないと核戦争Ⅱ第3次世界大戦になりかねない」

私にはロバーツ氏の言い分もよく理解できません。氏は一貫して「お人好しのプーチン」と批判して、これまでの生ぬるいロシアの戦略に苛立ちを表明してきたからです。

これについては拙著『ウクライナ問題の正体』全3巻で詳説してきましたし、『コロナとウクライナをむすぶ黒い太縄』全4巻でも、そのことを繰り返しかえし詳説しました。で、その説明は割愛させていただきます。

が、プーチン自身も、ドンバス地区の国々が再度の住民投票でロシアの国として編入することに圧倒的多数で賛成票を投じた後の「住民との懇談会」で、「今まで迅速に行動しなくて申し訳なかった」と謝罪したことだけは、明確にしておきたいと思います。

というのは、「アメリカが二〇一四年のクーデターで合法政権を転覆させたとき、すぐに行動していたら、8年間に1万3000人も死傷者を出さなくても済んだだろう」と謝罪していたからです。

今から思えば、これは「プーチンの大罪」と言ってもよいほどのものでした。

ですから、現在のプーチン大統領の行動も同じ過ちを繰り返しかえしているのかも知れません。

5

ただし長期戦になった場合、ロシアが崩壊する以前にEUが経済崩壊し、この戦いが終わる可能性もあ

ります。実際、ドイツはロシアからの安い燃料が入ってこないため、企業倒産や企業のアメリカ移転が続
き、崖っぷちに立たされているからです。

またウクライナの財政危機も深刻です。ですからウクライナ自身が「404国家」となり、2〜3年後
には国家として存在していない可能性もあります。

さらに言えば、つい最近、お膝元の情報機関幹部がゼレンスキー暗殺に関与していたことも暴露されま
した。まるで「ヒトラーの暗殺計画」そっくりです。ですから来年の今頃、ゼレンスキーが存在していな
いかも知れないのです。

またゼレンスキーは「国家非常事態」を口実に大統領選挙を延期しているのですが、プーチン大統領の
ほうは戦争中も大統領選挙を実施し圧倒的高率で再選されたのですから、戦争を理由に延期することは許
されません。事実、EU諸国から「選挙しろ」という声も出ています。

だから、ゼレンスキーも選挙に追い込まれて落選⇒追放という事態もあり得ます。

このように考えると、今後の事態がどう展開するか予測が付きません。

アメリカの学生や民衆が、ガザの残虐行為「民族浄化」に抗議するだけでなく、ウクライナ問題にも視
野と行動を広げ、ウクライナ兵が戦場で無駄死に追いやられていることに抗議することにも精力をかたむ
けてほしいと願うばかりです。

そうすれば、貧困が深刻になっているアメリカ民衆も救われるはずだからです。彼らの膨大な血税が無
駄にウクライナに注ぎ込まれているからです。

先日、「櫻井ジャーナル」で有名な櫻井春彦さんから後掲のようなメールが飛び込んできたので驚愕しました。ブログに、インド在住の作家モハンティ・三智江さんから2つの手紙をいただき（今は金沢に一時帰国）、それをもとに次のような記事を書いたからでしょうか。

*それはペンタゴン（国防総省）だった!!——「コロナとウクライナをむすぶ黒い太縄」全4巻
<http://trackraka.blog.fc2.com/blog-entry-659.html>

それはともかく、櫻井さんからのメールは次のようなものでした。

寺島先生が指摘されているようにアメリカ国防総省がCOVID-19プロジェクトを計画したことは重要な事実ですが、確かに日本ではそれを指摘する人が多くありません。「COVID-19ワクチン」の危険性を訴えている先生方も口にしていないようです。

国防総省はウクライナで生物兵器を研究開発していましたが、ロシア軍が回収した秘密文書の中に研究内容を示すものが含まれていました。

その分析結果をロシア議会の委員会が昨年四月に発表（ロシア語）したのですが、「核の冬」に匹敵する深刻な被害をもたらすような遺伝子組換え技術を使った「万能生物兵器」の開発に関する記述があります。

<http://dunna.gov.ru/media/files/vAvvTotA3CCDYVpDmjA4mf0l8jAEc8R.pdf>



これまで「米軍の生物兵器研究」を詳しく調べてきたブルガリア人女性記者
ディリアナ・ガイタンジエバ

ロシア軍が収集したデータによると、その万能生物兵器は敵の兵士だけでなく、動物や農作物にダメージを与えることができ、これらの病原体の拡散によって影響を受けた国を完全に破壊し、民間人、食糧安全保障、環境にも影響を与えようとしているということです。

核兵器を使用するにはハードルがありますが、生物兵器はさほどではありません。その兵器を「民間企業」に製造させることもできるとされています。

参考まで。

それにしても櫻井さんから直々に情報をいただくとは想像だにしていませんでしたから感激しました。実に光栄なことでした。

7

ところで、私は「コロナとウクライナをむすぶ黒い太縄」第3巻の第3章で、次のように、アメリカによる生物兵器の研究をかなり詳しく紹介しました。

*「ディリアナ・ガイタンジエバ女史の衝撃的研究―ロシアを標的にして生物兵器研究と軍事作戦は果てしなく」

このガイタンジエバ女史の研究を読んでみると、ロシア人や中国人を標的にした研究もかなり進んでいることが分かり

ました。

ところが櫻井さんの上記メールに記されたロシア議会の最終報告書PDFを開いてみたらロシア語文献だったので驚愕しました。そこで次のような御礼メールを書きました。

拝復

いつも櫻井ジャーナルの貴重な情報に感謝しています。

そのうえ今度はロシア語による情報をいただき驚愕しました。

櫻井さんはロシア語も読めるんですね。

私はロシア語も教養部時代に少しは勉強したのですが、いただいた情報には手も足も出ません。せめて翻訳ソフトを使って下記の該当箇所だけでも読んでみたいと思います。

> 「核の冬」に匹敵する深刻な被害をもたらすような遺伝子組換え技術を使った「万能生物兵器」の開発に関する記述があります。

いただいたPDF資料の何章に右の情報が載っているのでしょうか。御教示いただければ有り難いと思います。

取りいそぎ、御礼&お願いのみにて失礼します。

寺島隆吉

8

すると3日後に次のような返事が届きました。

ロシア議会が発表した報告書のURLは次の記事で知りました。

<https://spunikglobe.com/20230412/us-working-on-universal-genetically-engineered-hot-weapon-russian-parliamentary-investigation-1109381193.html>

その記事によりますと、「アメリカは人間だけでなく動物や農作物にも感染させることができる普遍的な遺伝子操作生物兵器の開発を目指している。その使用はとりわけ敵に大規模で回復不可能な経済的損害を与えることを目的としている」と委員会は最終報告書に記した、とあります。

また「第5章 委員会の結論」の180ページから181ページにかけて、次のような記述（機械翻訳）があります。

「アメリカは、人間だけでなく動物や農作物も標的にできる普遍的な遺伝子操作生物兵器の開発を目指している。その使用はとりわけ敵に大規模で回復不可能な経済的損害を与えることを前提としている。このように現在の軍事的対立の状況においてアメリカは新しいタイプの生物兵器に戦略的な役割を割り当てている。」

「避けられない直接的な軍事衝突の可能性を見越して、秘密裏に標的を定めて使用することで、たとえ他の大量破壊兵器を保有している相手であっても、米軍が優位に立てる可能性がある。

米軍の戦略家によれば、ある特定の時期に、ある特定の地域で、異常な伝染病を引き起こす可能性のある生物学的製剤を、秘密裏に、かつ標的を定めて使用した場合の結果は、核の冬に匹敵する可能性があるという。

米軍の見解では、このような非常に効果的な生物兵器を保有することは、現代の武力紛争の本質を変える真の前提条件を生み出す。」

— 目次は次のようになっていきます。(以下略)

9

上のメールでは「ロシア議会が発表した報告書のURLは次の記事で知りました」とあったので、そのURLを開いてみました。

すると英語サイトSPUTNIKだったので安心しました。ロシア語サイトだと困るなど一瞬、思ったからです。

それはともかく、櫻井さんのメールでは、ロシア議会の委員会が昨年四月に発表した最終報告書（ロシア語）の「目次は次のようになっていきます」として、最後にその目次が載せられていました、そこで以下にそれを紹介しておきます（たぶん翻訳ソフトを使ったものだと思います）。

はじめに

第1章 世界の生物学的脅威を作り出したアメリカ

1.1 アメリカの生物兵器計画

1.2 生物兵器に対するアメリカのアプローチの変容

1.3 以前に生物兵器に取り組んでいた施設の近代化

1.4 アメリカにおける現代生物学研究の方向性

1.5 生物学的研究を行うための戦術の変化

- 1.6 国防総省の国家領土外における生物医学活動のモデル
 - 1.7 生物学的研究を行う上でのアメリカの安全対策遵守について
 - 1.8 平和目的の科学研究を装った、アメリカによるグローバルな生物学的情報システムの形成
- 第2章 ウクライナにおける国防総省の医療・生物学的活動、アメリカの軍事・生物学計画の不可欠な一部として
- 2.1 生物学的分野におけるウクライナとアメリカの協力に関する合意
 - 2.2 ウクライナにおける生物学的研究所の新設と近代化
 - 2.3 生物学的研究の方向性 進行中のプロジェクト
 - 2.4 ウクライナの疫学的状況に対するアメリカの影響
 - 2.5 アメリカによるウクライナ人専門家の訓練
 - 2.6 ウクライナにおける感染症の発生
 - 2.7 人体実験
 - 2.8 スラビャノセルブスク地区住民に対する生物学的テロ行為
- 第3章 アメリカとウクライナの生物医学・生物学的活動の国際法的評価
- 3.1 生物兵器の禁止に関する国際法体制
 - 3.2 B T W C（生物兵器禁止条約）体制強化に向けたロシア連邦の取り組み
 - 3.3 軍事・生物学的開発分野におけるウクライナとアメリカの国内法およびB T W C遵守

34 アメリカとウクライナのBTWC遵守の観点から、ウクライナ領土内の生物学的研究所の活動を評価する

35 アメリカとウクライナによる国際的義務違反の兆候

第4章 生物学的安全保障システムの準備

新たな生物学的課題・脅威に適切に対応するためのロシア連邦の安全保障

41 ロシア連邦における生物学的安全保障を確保するための戦略的・法的基盤

42 生物学的安全保障分野における国家当局の体制

43 ロシア連邦に対する外部からの生物学的脅威の監視システム

44 生物材料の輸出と遺伝子データの保護

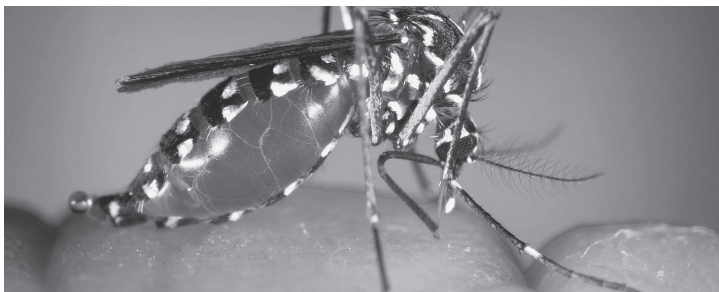
45 特に危険な病原体の輸出入に関する輸出管理の強化措置

46 外部からの生物学的脅威に対するロシア連邦の対応システム

47 国際協力

第5章 委員会の結論

第6章 ロシア連邦の生物学的安全保障とBTWC体制の強化に



蚊を使った細菌兵器

<https://sputnikglobe.com/20230412/us-working-on-universal-genetically-engineered-bioweapon-russian-parliamentary-investigation-1109381193.html>

一 関する提案

既に紹介したように、櫻井さんは、「また『第5章 委員会の結論』の180ページから181ページにかけて、次のような記述があります」として、機械翻訳したものを紹介してくれています。その中に次のような一節がありました。

「避けられない直接的な軍事衝突の可能性を見越して、秘密裏に標的を定めて使用することで、たとえ他の大量破壊兵器を保有している相手であっても、米軍が優位に立てる可能性がある」

この一節は、いまウクライナ戦でゼレンスキー大統領が負け戦を戦っているときだけに、とりわけ重要な観点ではないでしょうか。

10

私は先に、『コロナとウクライナをむすぶ黒い太縄』第3巻第3章でガイタンジエバ女史の研究を紹介したと述べました。が、最近ようやく、私が引用した彼女の研究が『翻訳NEWS』にも載せられました。それは次のようになっていました。

* The Pentagon Bio-weapons
 「アメリカ国防総省（ペンタゴン）の生物兵器」
<https://tmmethodblog.fc2.com/blog-entry-2471.html> (『翻訳NEWS』2024-05-11)

研究は彼女のホームページに載せられていたもので、それを印刷しようと思うと34頁にも及ぶものでし

た、しかも画像も豊富です。

* <https://diyana.bg/the-pentagon-bio-weapons/>

ですから、翻訳してもらってサイトに掲載してもらうとなると大変な作業になりますから、これを素材情報として「翻訳グループ」の皆さんに送るのをずっと遠慮してきました。

しかし、この重要な情報をサイトに掲載しておくことは、今後いろいろなひとが参照するのに貴重な基礎資料になるはずだと考え、思い切って「素材情報」として「翻訳グループ」の皆さんに送ることにしました。

この私の願いに「翻訳グループ」の皆さんは見事に答えてくれました。その経過と苦勞をサイト管理者の山川さん（仮名）は次のように書いています。

この長文の記事は中田さん（仮名）が下訳され、大山さん（仮名）が校正されましたが、その校正校が届いてから掲載するまでに3日間かかりました。

画像が108枚もあったからです。ミスを防ぐために原文を全て印刷して画像に番号づけしました。ところが、その半分以上が「☒」でないため変換ソフト（フリー）にかけるのですが、1日に出る数が制限されていて困りました。

でも翻訳チームが力を合わせて、貴重な基礎資料が掲載できてよかったです。

この場を借りて「翻訳グループ」の皆さんに改めてお礼を申し上げます。と同時に本書の読者の皆さんにも、この貴重な翻訳を是非とも読んでいただきたいと思いました。

そのすべてを読むのが時間的に大変だと想われる方は、せめて載せられている画像だけでも目を通していただければ有り難いと思います。

〈本章のキーワード〉

ジョージア外国人登録法 [The Law on Transparency of Foreign Influence]

アメリカ外国人登録法 [The Foreign Agents Registration Act (FARA)] 一九三〇年

*アメリカの登録法はジョージア (旧名ゲルジア) の登録法よりも、はるかに厳しい

福島雅典 (京都大学医学部名誉教授、殺人ワクチンの批判者)

ディリアナ・ガイタンジエバ (Dilyana Gaytandzhieva、ブルガリア人、女性記者)

マイケル・ハドソン (Michael Hudson、ミズーリ大学カンザスシティ校の経済学教授)

ポール・クレイグ・ロバーツ (Paul Craig Roberts、経済学博士、元アメリカ財務次官)

ジル・スタイン (Jill Stein、大統領選挙に立候補、緑の党、ユダヤ人、元ハーバード大学教員)

ポスト・ロシア自由国家会議（CIAによって組織された、ロシア解体を目指す亡命者集団の会議、「The Post-Russian Forum of Free Nations」）

万能生物兵器（DODによる、遺伝子組換え技術を使った研究。作物・家畜が狙い）

国防総省（DOD：Department of Defense）

*元は「戦争省」（Department of War）と言っていた。こちらの名称の方が正直だった。

BWC（Biological Weapons Convention）生物兵器禁止条約、発効一九七五年

BTWC（Biological and Toxin Weapons Convention）「生物兵器禁止条約」。細菌兵器および毒素兵器の開発・生産・貯蔵の禁止ならびに廃棄に関する条約。BWCと略称されることもある。